

令和4年度
足立区青少年委員会
ブロック教育懇談会記録

足立区青少年委員会

目 次

1 ブロック	1 ページ
2 ブロック	6 ページ
3 ブロック	9 ページ
4 ブロック	13 ページ
5 ブロック	21 ページ
6 ブロック	28 ページ
7 ブロック	30 ページ
8 ブロック	32 ページ
9 ブロック	34 ページ
10 ブロック	36 ページ
11 ブロック	39 ページ
12 ブロック	50 ページ
13 ブロック	54 ページ

令和4年度 足立区青少年委員会 第1ブロック教育懇談会

開 催 日	令和4年7月6日	会 場	千寿小学校 5Fランチルーム
時 間	18:00~20:05		
参 加 者	足立区教育委員会（青少年課課長）：山田 勉 足立区教育委員会（教育委員）：小関 朝之 足立区青少年委員会（会長）：多島 三好 足立区青少年委員会（副会長）：嶋田 健一 足立区青少年委員会（第8ブロック長）：鈴木 奏子 各校校長、PTA会長、開かれた学校づくり協議会会長 足立区青少年委員会 第1ブロック青少年委員9名 参加総数 39名		
会議次第	司会進行 青少年委員会第1ブロック 委員 1. 開会の辞 2. 第一ブロック長 挨拶 3. 委員会会長 挨拶 4. 来賓 挨拶 5. 会場校校長 挨拶 6. 来賓紹介 7. 各校発表 8. 総評 9. 閉会の辞		
テ ー マ	コロナ禍における教育現場の実況と課題		

[懇談会記録]

1. 千寿本町小学校(増田校長)

- ・2020年3月から学校が3か月休校になったところからコロナ対応が始まった。
- ・創立30周年の周年行事は、Zoomを活用して子供たちとPTA会長と周年行事会長だけお招きをして、お祝いをする会を開催。
- ・一時的に子供たちの感染の状況が今までなかった状況となった。
- ・今年は3年ぶりの運動会を保護者に見ていただくために、低学年・中学年・高学年に分けて行った。
来年度以降に向けて、要望は多いが、物理的に密を避けることなど、課題が多い。
- ・熱中症対策についても今後、児童にマスクを外させることが課題となる。

2. 千寿桜小学校(渡辺校長・中屋会長(開かれ))

- ・2020年、足立区の教育委員会より指導力向上中核校(理科)に指定される。
東京都小学校理科教育研究会研究発表校
- ・人工芝になってから初めての運動会を開催。
- ・離任式を全校揃って校庭で開催。
- ・各学年の学習に絡めての校外学習では、コロナ対策の他、熱中症対策を重点的に行った。
- ・1人1台タブレットでの学習及び保護者と繋がるためのICT活用。
→Googleフォームの活用。
- ・開かれた学校づくり協議会は青葉中と連携をして花壇活動を行った。

3. 千寿双葉小学校(星崎校長・山本会長(PTA)・北島会長(開かれ))

- ・区の方針を基に工夫をしている。
- ・全校朝会について全校生徒が校庭に集合し開くようにしている。
→体育館は人数的にオーバーするので、天候不良の日等はGoogle meetを利用して開催。
- ・今年度の運動会は2学年ずつの交代制で開催。
- ・学習面では、道具を使用する授業での対策。(手洗い・うがいを徹底する)
→マスクをしながらの合唱や合奏等については今後の課題。
- ・課題→マスクを外させること。(熱中症対策・密を避ける)
- ・子供たちの机は抗菌コートを施した。(PTA)
- ・専科を含めた全クラスにPTAからアルコールスタンドを補充。
- ・子供たちが安心して過ごせるように、学校と協力をしてバックアップをしていく。(PTA)

4. 千寿常東小学校（佐々木校長・村上会長 (PTA)）
 - ・運動発表会という形で学年ごとの入れ替えで開催。
 - 1 日だけ児童鑑賞日を設けて、他学年の競技を子供たちだけで見て応援するというものを行った。
 - ・地域や保護者の活動も少しずつ元に戻ってきている。
 - ボランティアの図書読み聞かせ、おやじの会の活動が今年から復活している。
 - ・10月のPTAの常東祭りも今年は開催する方向で動いている。

5. 千寿第八小学校（中田校長・入澤会長 (PTA)・高崎副会長 (開かれ)）
 - ・運動会は学年ごとに保護者を入れ替えて開催、他学年の競技は各教室にて Meet で視聴
 - ・全校仲よし班活動は2学年ずつ、1・6年、2・5年、3・4年の構成で実施
 - ・今後の課題として、熱中症対策としてマスクを外させることが課題となる。

6. 元宿こども園（岩島園長）
 - ・東京施設や医療関係者については臨時保育として子供たちを預かっていた。
 - ・2歳までの子供はマスクが出来ないためマスクはしていない。
 - ・3歳以上はマスクをするが、マスクの大切さを教えながら着用を促す。
 - ・全体的に消毒は徹底して行っている。
 - ・プールを実施。初めてプールに入る子供もいるため、細心の注意を払っている。
 - ・マスクの影響が出てきていることが心配。（食事の際の咀嚼の仕方等）
 - ・運動会も2学年ずつで実施の方向で検討。

7. 第一中学校（矢部校長・松沼副会長 (PTA)・小林会長 (開かれ)）
 - ・千住・中央ブロックの研修会を開催する際に講師として登壇。
 - ・中学3年生は小学校の卒業式や中学校の入学式等、学校行事がほぼない状態。
 - 今年度は修学旅行が決行できた。
 - ・運動会を開催→マスクを外した生徒は1/3くらい。
 - ・生徒たちが安心安全に過ごすためにPTAでできること
 - 接触感染を防ぐ→抗菌コーティングを行う→コーティング前に拭き上げ作業を行った。
 - 暑さ（熱中症）対策としてミストシャワーを購入して設置。

8. 千寿青葉中学校（鈴木校長・甲田会長 (PTA)・國分会長 (開かれ)）
 - ・校舎が完成（冷暖房完備）。→空調の設備がよく、24時間換気。
 - ・運動会を開催→保護者は1名のみ。雨で延期した分を、月曜に開催→保護者はフリーにした。
 - 雨の中でもPTA等、保護者がお手伝いをしていた。
 - ・宿泊行事を実施。前年度は横浜で1泊（3月）の修学旅行を実施。

→9月に修学旅行と魚沼を実施予定。

- ・学校と連携をしてPTA活動を進めていく。

9. 千寿桜堤中学校（勝田校長・村上共同会長(PTA)・奥山会長(開かれ)）

- ・PTA活動の一環として、毎月土曜授業の日に、校長と保護者がZoomで対話をする会を開催。
- ・コロナ禍で開かれた学校づくり協議会がなかなか開催できていない。
- ・周年行事が近づいてきているため、どのように開催をするかを検討。
- ・令和2年は生徒の命と心を守ることを大前提に教育活動を行った。
→運動会、修学旅行、部活動はほぼほぼ無しという状況になった。
→分散登校でノーチャイムを実施したことは、生徒たちが時間を意識して行動できるようになっており、今年度も引き続き実施していく。
- ・GIGAスクール構想の前倒しで3年生にタブレットを配布。
土曜授業をリモート学習で行った。
→足立区は許可してくれているが、文科省からは不許可（登校扱いにならない）ということがあった。
- ・2021年度は徐々に部活動等の学校活動が始まった。
- ・コロナの重症化リスクや怖さを改めて実感。→これからも危機感を持って対応。
- ・IT機器を活用→ICTと教材の共存をどうしていくかが課題となっている。

10. 千寿小学校（信田校長・小林会長(PTA)・山本会長(開かれ)）

- ・本来のPTA活動ができない状況で他のところで考える機会ができています。
- ・ICTの利用をできる限り促進をし、できるだけツールを使用して資源を削減できるところは削減をし、継続できる活動を促進する。
- ・シーン毎によってマスクの着用有無について考えていくことを子供たちに教えたい。(PTA)
- ・10/30に創立20周年行事の記念式典を開催した。
- ・コロナの状況で児童数・学級数の増加に伴い対策を検討。
→登下校時の見守り、地域パトロール等、PTA・保護者の協力。
- ・運動会は学年ごとの入れ替えで開催。
- ・学校全体の取り組みとして心と生活の安定、学習補償、学力低下の防止。
- ・在宅で過ごす時間が長くなる中で、元の生活のように戻るには一定の時間リハビリが必要だと思われる。
- ・ICTの整備もできてきているので、GIGAスクール構想を実現していかなければならない。
- ・SDGsをテーマとした千寿フェスタを実施。
- ・高学年の取り組みとしてプログラミング教室を行っている。

11. 総評（足立区教育委員会 教育委員 小関朝之様）

- ・千住には長い間親しみを持ってきており、今回の懇親会では多く活発な意見が出てきたことについて大変うれしく思う。
- ・今後も千住の子供たちを見守ってほしい。



以上

令和4年度 足立区青少年委員会 第二ブロック教育懇談会

開催日	令和4年12月15日(木)	会場	江北小学校多目的ルーム
時間	懇談会 18:30~19:45		
参加者 (敬称略)	<p>足立区教育委員会子ども家庭部青少年課長 山田 勉 足立区青少年委員会会長 多島 三好 足立区青少年委員会副会長 松崎 顕治 足立区青少年委員会第3ブロック長 木島 俊江</p> <p>① 校長②副校長③開かれた学校づくり協議会会長④PTA会長⑤青少年委員 宮城小学校・①出水典克③下川佐智子④工藤隆朗⑤田中則聡 江南中学校・①半村拓哉⑤前田博司 江北小学校・①武智勇喜②松田安弘③斎藤直秀⑤伊木恒人 扇小学校・①宗像文子②中岡理和③清水康弘④有澤通⑤遠藤滋子 江北桜中学校・①金子哲朗③今西靖彦④神矢洋介⑤橋本博子</p>		
会議次第	<p>《 教育懇談会 》</p> <p style="text-align: right;">司会 遠藤 滋子</p> <p>1、開会の辞 遠藤 滋子</p> <p>2、ブロック長挨拶 第2ブロック長 田中 則聡</p> <p>3、来賓挨拶 足立区教育委員会子ども家庭部青少年課課長 山田 勉 様</p> <p>4、会場校校長挨拶 江北小学校 武智 勇喜 様</p> <p>5、テーマ 「各校の紹介、取り組みについて」</p> <p>6、青少年委員会挨拶 足立区青少年委員会会長 多島 三好 様</p> <p>7、閉会の辞 遠藤 滋子</p>		
テーマ	<p>「各校の紹介、取り組みについて」</p> <p>各メンバーの自己紹介、主に校長先生から学校の紹介</p> <p>【宮城小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開かれた学校協議会主催、給食試食会は黙食の状況で中止にせざるを得ず。 ・ 10月30日地域主催の子供向けはハッピーイベントを行った。 ハロウィーン前日で仮装大会。お菓子作りやポッチャの体験会など。 ・ 展覧会、ナイトミュージアムの取り組み ・ 運動会は2部に分けて実施、10月に時期を変更、11月に音楽会 ・ 総合学習「荒川」を題材に。サケの放流を実施 ・ 足立小台・宮城地域のスーパー、飲食店と連携、特色あるお弁当作り。 ・ 英語教育、月一回のイングリッシュウィーク <p>【江北小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の新校舎・施設、各学級の状況紹介 ・ 統合初年度ではあるが、もともとの交流もあり子供たちは和気あいあい ・ コロナ下での行事、体育発表会10月29日に実施、保護者の人数制限学年を分けて実施。 ・ 音楽会も一部二部に分けて実施、保護者見学もその学年のみで実施 		

- ・ あいさつ運動の取り組み。正門裏門に立って実施。高学年が率先して実施。東京女子医大通りをあいさつの通りに変えていきたい。
- ・ SDGs 関係。6 年生中心に公園の清掃。江北地区全体でできればいい。
- ・ 基礎学習の取り組み。自主性をキーワードに。6 年生は自分から進んでこれをやりたいと言ってくれる。
- ・ 開かれた学校づくり協議会。新校の協議会は 9 月にようやく立ち上げ。今年度漢検を実施予定。

【扇小学校】

- ・ 各学年 2 クラス。校庭のスペースもあり、外遊びは学校を 2 つに分けて実施
- ・ 運動会も学年に分けて実施。学芸会の年であったが、規模を縮小して学習発表会を実施。多くの学年は歌や群読、6 年生は日光自然教室についてタブレットを使ってプレゼンテーションを実施。レベルが高かったのが驚いた。
- ・ 学力の基礎基本の定着に注力。全教員でできたわかったを合言葉に。
- ・ 計算問題の取りこぼしが減っており、成果を感じている。
- ・ 体験学習。開かれた会長の畑でジャガイモを植えて、芋ほり。近隣の田んぼから苗をもらって、学校で育てる。
- ・ 地域との交流も活発化。近隣在住の落語家さんを呼んで落語教室も開催。
- ・ 挨拶運動。教員が外に立って実施。ここ数か月で手ごたえ。
- ・ 開かれた学校づくり協議会、PTA 連携でサタデースクールを実施
- ・ 10 月に小規模ながら「扇っこまつり」を実施。江北桜中学校吹奏楽部の演奏。

【江南中学校】

- ・ 151 名の生徒でスタート。
- ・ 宮城小学校からの生徒が多く、長い付き合い、生徒のまとまりがある。
- ・ 2 年生魚沼、運動会、修学旅行、職場体験。コロナ禍ではあったが予定通り実施できた。
- ・ ボランティアの地域清掃を行っている。ほぼ先生・生徒全員が参加している。
- ・ 開かれた学校づくり協議会で花いっぱい運動を行った。小さな花壇しかないが、ボランティアを募ったところ 69 名の生徒が参加急遽プランターを追加。
- ・ 来年度、70 周年を迎える。式典 11 月 11 日を予定。

【江北桜中学校】

- ・ 開かれた学校づくり協議会、コロナ禍で行事は思ったようにできていなかったが年 3 回の会議は実施し、意思疎通を図ってきた。花植え活動は年 2 回実施。
- ・ P T A 主催の挨拶運動には開かれた学校づくり協議会も参加
- ・ 運動会、江北桜祭、合唱祭については P T A も支援。P T A から見ても生徒のあいさつも活発であり、いきいきとした学校の様子がうかがわれる。
- ・ ギャラクシティでの合唱コンクール 3 年ぶりの実施。練習時間が短い中でも 3 年生の発表は素晴らしかった。1, 2 年生にも良い影響を与えている。

【会場の様子】



令和4年度 足立区青少年委員会 第3ブロック教育懇談会

開催日	令和4年7月1日(金)	会場	西新井小学校ランチルーム
時間	18時30分～19時45分		
参加者	足立区教育委員会 青少年課 青少年委員会 青少年委員会 青少年委員会 興本扇学園 興本扇学園・扇中 興本扇学園・興本小 本木小学校 寺地小学校 第六中学校 西新井小学校 西新井第一小学校 第五中学校	課長 山田 勉 様 会長 多島 三好 様 副会長 原田 勉 様 13B長 清野 美貴 様 稲葉 守朗 校長先生 市川 一 PTA会長 木島 俊江 青少年委員 伊藤 みちこ 青少年委員 藤田 暁美 校長先生 都原 猛 PTA会長 高橋 徳行 青少年委員 立野 豊 校長先生 阿出川 忍 青少年委員 鵜飼 康成 校長先生 本橋 真弓 PTA会長 加納 和彦 校長先生 金子 雄哉 PTA副会長 丸山 昌子 青少年委員 武藤 浩司 校長先生 石鍋 浩 青少年委員 石井 秀生 校長先生 後藤 昭仁 PTA会長 土方 紀昌 青少年委員	(計23名参加)
会議次第	<p style="text-align: right;">(司会 丸山青少年委員)</p> <p>1 青少年委員会第3ブロック挨拶 木島 俊江ブロック長 2 青少年委員会挨拶 多島 三好 会長 3 教育委員会 青少年課挨拶 山田 勉 課長 4 来賓紹介 司会 5 テーマ発表 各学校 6 来賓の方から一言 原田 勉 副会長 清野 美貴 13B長 7 閉会のことば 石鍋青少年委員</p>		
テーマ	『コロナ禍での子供たちの様子(マスク生活の弊害)』		

[懇談会記録]

第3ブロックでは感染対策を十分に考慮し、西新井小学校のランチルームをお借りして各校の校長先生、PTA会長、青少年委員（出席者23名）で令和4年7月1日（金）に行いました。

最初に青少年委員会の多島会長から御挨拶をいただき、その後、青少年課 山田課長より「青少年委員とは何？また仕事について」をお話ししていただきました。

次に各校自己紹介とテーマ『コロナ禍での子供たち様子（マスク生活の弊害）』を校長先生よりお話ししていただきました。

各校校長先生からのお話の内容まとめ

第五中学校 石井校長先生

表情が伺えない、コロナが終わってもマスクを外せなくなるのではないか心配。熱中症とコロナの関係でマスクを外させるタイミングが難しい、そんなコロナ禍ではあるが、宿泊行事が出来たこと、運動会・授業参観に人数の制限はあったが保護者をよべた事は良かった。このまま感染が治まってくれることに期待

西新井第一小学校 武藤校長先生

マスクを外す外さない議論はコロナが始まって1年後位からずっとあったがマスクを強制はしてこなかった。それよりも熱中症に関して外す外さないの判断が大事、プールの指導で初めてマスクを外した子供たちの顔を見て、この子はこんな感じの顔だったんだとちょっとびっくりするなぁと感じました。コロナの副産物ではないがICTが急発展したなと思います。本校は70周年を迎える事が出来ました。

西新井小学校 加納校長先生

コロナ禍になり久しくPTAとの協働行事がなかったが今年度、運動会を協働で開催し無事に終わった時の達成感を共有出来たことは良かった。外部の人達が学校になかなか入れないということもあったので、今まで本校ではなかった保護者用のネームプレートを作り防犯上の安全安心を高めた。マスクを外す外さないは、やはり子供たちが素顔を見られたくなくて外さない子供もいるのかで心配。人の顔の表情を見て状況を感じる力が低下しているのが心配。地域との繋がりが弱くなっているのが心配。

第六中学校 鵜飼校長先生

六中も他の学校と良いところも悪いところも変わりません。月曜日から金曜日まで授業時間がフルにあり更に部活まであるというフル活動に耐えられない生徒が出てきている。個人的なマスクの弊害はクラス写真撮影などでマスクを外した時、自然に笑顔が出来ない日々はマスクに押さえつけられているからと言う弊害を感じています。

寺地小学校 立野校長先生

マスクの弊害と言うと他の学校と同様なのでコロナの弊害について、全体集会が出来ず教室でのリモート集会が多くなり、学校内の他人の目を意識する公共の場がなくなり高学年は低学年にしっかりしている所を見せる場がなくなりだらけ、低学年は高学年に褒められる場がなくなりだらけてしまいこれではまずいとコロナ禍が収まってきたので奇数学年、偶数学年で集まれる機会を作り少しずつ以前に戻りつつある。家庭内の問題が増えてきており心配。

本木小学校 藤田校長先生

マスクの弊害についてはやはり他校と同じです。コロナの弊害として、放送朝会、リモート朝会が増えて、子供たちの反応が見えないのが話しづらいと感じています。今、心がけているのは笑顔で挨拶をすること、マスク越しでも笑顔で挨拶をすると子供たちも笑顔で挨拶を返してくれる子供が多くなりました。今年初めての試みを紹介させていただきます。本木スポーツフェスティバルを行いました。6年生が企画から運営まで行い、子供たちは大いに盛り上がりました。

興本扇学園 稲葉校長先生

最後に話しますので、よく寄席に行くのですが寄席では前の噺家の話とかぶってはいけないきまりがあるのでかぶったら嫌だなあと感じていましたらかぶってなくてよかったです。マスクの弊害、足立区では糖尿病の大人の方が東京で一番多い、糖尿病になっていく過程を紐解いていくと子供の頃の虫歯の率が高いと結びつくので足立区ではとにかく子供の虫歯を無くそうと努力してきた、それがコロナの影響により学校で歯磨きが出来なくなった結果、歯周病の子供が増えてきている。今、感染対策をしっかり行い歯磨きを再開している。マスクのせいで口の動きが低下しているので舌運動、鼻呼吸を行うことが大事。

校長先生のお話の後、13ブロック長 清野様、原田副会長より一言を頂き、閉会となりました。

コロナ禍での子供たちの様子、マスク、コロナの弊害を聞いたこと、ブロックの顔合わせが出来たこと、有意義な時間でした。



令和4年度 足立区青少年委員会 第4ブロック教育懇談会

開 催 日	令和4年6月21日	会 場	梅田地域学習センター 3階 第1学習室
時 間	18:00～19:30		
参 加 者	講師： 教育委員会教育指導課長 八尋 崇様 来賓： 教育委員会青少年課長 山田 勉様 青少年委員会会長 多島 三好様 青少年委員会副会長 大西 るり子様 青少年委員会12B長 浅香 一浩様 参加者： 第4ブロック小中学校 校長・PTA会長 第4ブロック青少年委員 9名 (計34名)		
次 第	1. 主催者挨拶 4ブロック長 遊馬 正子 2. 来賓紹介 教育委員会青少年課長 山田 勉様 青少年委員会会長 多島 三好様 青少年委員会副会長 大西 るり子様 青少年委員会12B長 浅香 一浩様 3. 講話 教育委員会教育指導課長 八尋 崇様 4. 各校の取組み 各学校長並びに PTA 会長 5. 総評 青少年委員会会長 多島 三好様 6. 閉会の辞 4ブロック青少年委員 塚本 孝子様		
テ ー マ	「性の多様性に関する対応～標準服（制服）・校則に関する対応」 第4ブロック内各学校長と PTA 会長各位報告		
<p>【懇談会記録】</p> <p>今年度第1回目は、『性の多様性に関する対応～標準服（制服）・校則に関する対応』という事で八尋様より講話を頂戴し、その後各学校での取り組み等についてご報告をいただきました。各学校における取り組みや、仕組みづくりなど、或いは子供たちの様子についてお話をいただきました。</p> <p>以下に報告内容を記します。</p> <p>◆--- 八尋様 講話要約 ---◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の意識の必要性 呼び方、名簿男女別、世の中の流れと学校側の意識のずれ（マニュアルやガイドラインの作成、研修会の実施）。 ・制服は1型2型3型と選べる表記にして自由な選択を可能とした。 ・校則が古く文言修正が必要で、全小中学校にて実施中。 例) ツーブロック禁止の文言廃止 ・子供たちが主体になって学校のきまり（校則）を考える環境作りを検討 ・“性”の多様性というより、多様性の世の中になっている。 <p>※末尾に全文掲載しております。</p>			

◆--- 足立区立栗原小学校 ---◆

田中 泰徳校長：

そもそも小学校は標準服も無いですし、我々小学校の視点から見ると中学校も制服を無くしてもいいのではないかと簡単に思ったりもします。制服については学校にふさわしい格好で来ると言う辺りでラインを決めて、自分達で考えさせるのも1つではないかなと思いつつ、でもやはり小学校は小学校なりに縛られている事があつたりします。色々なものが今見直されている時期なのだという事を考えて、自分の固定概念を変えていかなければならないと、つくづく思っている今日この頃です。

◆--- 足立区立島根小学校 ---◆

世取山 哲哉校長：

以前聞いた研修でも比率でいうと各クラスに1、2名位はいるぐらいの比率になっていると聞いています。先日本校では無事に日光も鋸南も終わり、体調を崩す子も無く無事に終わることができましたが、今後そういった宿泊行事のときに一つ考えていかなければいけない課題になってくるのかなと今もつくづく思いました。私達教員なので、自校の子供たちの中にそういう悩みを抱えている子供がいたら、親身になって相談に乗る事はできると思います。

ただ、私も子供が2人いますので、自分の子供に置き換えたときに、自分は果たしてどういう態度をとることができるだろうかという事には悩むところです。知識としては分かっているものですが、自分の子供に対してどう対応できるか。これからの特に若い人たちの生き方、考え方っていうのを、もっと自分が理解していかなければならないと思いつつ、ちょっと複雑な思いで色々お話を聞かせていただきました。

また一緒に考えて勉強していきたいと思つています。よろしくお願ひします

◆--- 足立区立梅島小学校 ---◆

近津 勉校長：

例えば先ほどもありましたが小学校ですので、服装は特に決まりはありません。髪型も特段の決まりはないです。ただ、例えば学校の中では、名簿とか、お話ありましたけど、並び順はどうなつているのか、水着の話もありましたが、男子女子の水着とかがつていう言い方とか、あるいは学校は施設の中にも、トイレの表示なども男女別で色で別れていたりするかと思つています。

色々なところがこれまでと考え方を変えていかなければならない部分つていうのが大きいのだろうなと思つていますし、そういった考え方を変える大事な原動力は、『なぜ』つて思うことなのかなと感じています。私も先生方と一緒にこれつてこういうふうにつやっているけど、何でこうでなかつやいけないのかを考えてみようつという事、色々なことを考えるようにこれからもしています。

なるべく学校が時代に追いついていけるようにしていきたいなつというふうにつやっています。どうぞよろしくお願ひします。

◆--- 足立区立梅島第一小学校 ---◆

<落合 秀章校長>

今の時代は、個人が選択できる時代になってきたなということで、私が若い頃だとやっぱり画一的な一斉指導でした。それが今は、様々な選択ができる、要するにそういった多様な価値観を大切にしなければならない、我々教員の方は、その多様な価値観に対応できるだけの力量が必要になってくる。まさにこんな時代になるということ为先週、教職員の方に衛生指導の前の話題からそんな話をしました。今の八尋課長の話を聞きながら、やはり性だけのことで無く、色々なことに言えることだなということで、これからの1つの学校の課題として取り組んでいきたいと思っております。

◆--- 足立区立梅島第二小学校 ---◆

<竹花 正徳校長>

連休明けに、2泊3日で鋸南自然教室に行ってきました。学校で色々なことを学びます、学校の中で完結するだけではなく、学校で学んだこと自然教室等々を通じて他校との関わり、それから社会との関わりを、実践的に学んでいくところではないかなというふうに思います。

多様性についても手がける前に、世の中にはたくさんの方々の考え方をを持った人がいる、色々な考え方をを持った人がいるというのを、事前に道徳の授業を通して学んでから移動教室、自然教室に出向いていきました。色々な発見をして、色々な人たちと仲良くしながら2泊3日過ごして学校に戻ってきて、まとめをどこかに掲示して、お互いに交流をしているところです。道徳だとか教科の力を通じながら、お互いの良さを認め合いながら、学級を明るくしながら学習をしているところですこれからもよろしくお願ひいたします。

◆--- 足立区立関原小学校 ---◆

<吉丸 清昭校長>

休み時間に6年生からの九九検定っていうのをやっております。6年生でもきちんと九九が出来て中学校行ってほしいっていう思いです。ただ話しづらいのでマスクを外したら？と話しました。もちろん距離も取って、窓も校長室全部ドアも開けているのですが、女の子はほとんど取らないのですね。NGNGという感じで。ですから今日の多様性と言う話でこのコロナ禍でもマスクをつけるということでそれぞれがみんな違ってみんな良いっていうことを1つ感じました。

◆--- 足立区立亀田小学校 ---◆

<大井 欣一校長>

多様性に関する内容ですが私は子供たちの様子を見ていて、子供たちは、大人と言うか教職員よりも、対応力あるなというふうに思っています。服装だったり、色の思考だったり、しぐさだったりとか、それについては子供達同士ではそのことを対応しているというか、受け入れている部分が多々あるなというふうに思っています。

課題は教職員の意識をこれからもっと高めていくことが必要だと思っていて、ただ服装とか行動だとか、しぐさに関しては割に対応することができるのですが、何気ない言葉と言うか、男の子らしくとか、女の子らしくとか、男気とか女気とか、そういうのはある程度年齢が高い先生たちはつい言葉を出してしまうので、そこの部分をどうやって無くしていくのか、悪気がなくても出てしまうっていうことがあるのでそこへの意識を高めていくことが必要だと感じています。

ただ、その様な話を教員にすると、亀田には私の小学校の時の教え子が何人かいるので、1番言っていた人がそんなこと言うのか等と言われるので、本当に難しいというか、難しい対応をしなければならぬ時代になっているのだと感じています。

同時に意識を高めると同時に、ハード面で、だからトイレだとか行為だとかあったときに、亀田の場合は、共通の多目的トイレがあるので対応することができますが、そうでない学校だと、どうするのか？その準備を進めていくとか、必要だと思いますし、様々な事に対する対応策もこれから検討していかなければいけないというふうに思っています。

◆--- 足立区立第七中学校 ---◆

<柏木 圭子校長>

今年度から学校の決まりなどについて、色々なことを見直ししています。まず、髪型、例えば女子が結ぶとか、男子は耳にかかるとはいけないと言った表現は、全て今年度から無くなっております。標準服については先日学校説明会を行いました。そこでは学生服型、あるいはセーラー型ジャケットを選んで着ていただきますという言い方で、今年度から対応しているところです。

その様な見直しを学校では始めているところです。何のためのルールなのか社会には必ずルールがあるものですから、そこも含め中学校では、これから社会人になっていくために教えていかななくてはならないというふうに思っていますし、何よりもやっぱり居心地の良い学校にするためにはみんなですべてどうしていったらいいだろうという様なことも、朝礼などなどでお話をしながら、子供の考える場面というのを作っているところです。

◆--- 足立区立第九中学校 ---◆

<佐藤 豊校長>

今年度、紺色のポロシャツに変わったわけですがこれは理由があって、夏服で透けてしまうのがちょっと辛いということで、紺に変えました。それから冬服のインナーもちょっとニットシャツに変えて動きやすさとやっぱり下着が見えないということに特化して変えていったということです。何よりも大きく変わったのは体育です。小学校では当たり前ですが、男子と女子と一緒に体育しています。今までは体育の時間になると、男の子、女の子のグラウンドになっていたのですが、ひとクラスがそのまま授業をやっています。これも非常に最初悩んでいたのですが全く悩みなんか必要なく、小学校でしっかりその基盤があるので、今年の1年生の子はやって当たり前でした。大人が考える以上に成長が早いというふうに思っています。これからも子供たちそれから保護者の方や地域の方の意見を聞きながら、新たな服装が変われば校則が変わっていくのは当然ですので、そういったものを考えていこうと思います。

◆--- 足立区立第十中学校 ---◆

<田村 和夫校長>

本校も制服に関してはスラックスタイプ、スカートタイプということで今年の1年生の入学から案内をしています。それからやはり透けるということで、ポロシャツを紺色にしました。頭髮に関しても先ほど出てきたように男女ではなく、肩より伸びたら、ゴムで止めなさいという指示をしています。校則に関しては、先日3年生の方で学年の学活の中で、生徒会の役員が各学級でテーマを決めて話し合おうということで色々な校則について意見を出し合って6月に生徒総会でその辺をまとめ、また地域の意見とか、PTAの意見とかも取り入れながら、という対応をしています。

LGBT に関してですが、制服が選択出来る様な事になったとしても、それ以外に悩み苦しんでいる人はたくさん居て、親にも言えない、誰にも言えないで苦しんでいる子は相変わらずいると思いますが、少しずつ学校の方もそういう対応を出来る様にしていきたいと思います。

◆—— 青少年委員会会長 多島三好様総評 ——◆

学校ごとに考え方もあると思いますが、ある学校では、生徒の3年生に校則を決めていただいて、後輩に譲るということもあったらしいです。そう言う事を考えると、色々な事を生徒たちと先生方が話し合って、決めていくのは良いなと思います。それと性教育については4年ほど前に青少年委員会の方で大人の性教育というものがありました。大人が正しい性教育を覚えてないと、子供に正しく伝えられないと言う話がありました。その中で、やはり正しい性教育を子供たちにも教えなければならないと言う話がありました。

それと、今熱中症が小学校など色々な所で出ていますが、学校でマスクを外してくださいと言ってもなかなか子供たちが外さないで問題が起きています。きちんと子供たちにはこういう時はマスクを外しましょうという事をもっと大きな声で言っていただければと思っております。

父兄の意見もあってそれで感染したらどうするのかと言われるかもしれませんが、今コロナの感染状況もだんだん低くなってきています。やはりマスクをして息苦しい中で、勉強や体育の授業も大変です。思い切って学校の先生方、校長先生方が外して、やろうよって言うことを言っていただければ助かると思います。今日は本当に講演ありがとうございます。

★----- まとめ -----★

今回の懇談会で色々な状況が見えてきました、学校側の取り組みや報告としては。

- ・色々なものが今見直されている時期なのだという事を考えて、自分の固定概念を変えていかなければならないと思います。
- ・子供たちの中にそういう悩みを抱えている子がいたら、親身になって相談に乗ってあげる様に。
- ・色々な場面でこれまでと考え方を変えていかなきゃいけない部分っていうのが大きいのだろうと思いますし、そういった考え方を変える大事な原動力ってのは、『なぜ』って思うことなのかなと感じています。
- ・学校が時代に追いついていける様にしていきたいと考えています。
- ・多様な価値観を大切にしなければならないし、我々教員の方は、その多様な価値観に対応できるだけの力量が必要になってくると考えます。
- ・小さい小中学校の時期から子供たちには考え方、価値観を持ってもらい、異なる価値観を許容できるような教育をしていくことが大事なのかなと思っております。
- ・多様性の世界においては、相手が何を考えているかを汲み取り、それを理解し分かり合える能力（コミュニケーション能力）の向上が必要と考えます。
- ・課題は教職員の意識をこれからもっと高めていくことが必要だなって思っています。
- ・何のためのルールなのか社会には必ずルールがあるものです、そこを中学校ではこれから社会人になっていくために教えていかななくてははいけないと思っております。

懇談会を終えて

懇談会を終えて感じた事は、世の中の変化や流れに子供たちは柔軟に対応している様に感じました。そして、その変化に教育委員会や学校が後追いで、一生懸命変化に対応して子供たちを取り巻

く環境を整えている姿が見えてきました。特に学校長の皆様からは、「自分の固定概念を変えていかなければならない」、「学校が時代に追いついていける様にしたい」、「多様な価値観を大切にしなければならぬし、我々教員の方は、その多様な価値観に対応できるだけの力量が必要」、「子供たちには考え方、価値観を持ってもらい、異なる価値観を許容できるような教育をしていくことが大事」、「課題は教職員の意識をこれからもっと高めていくことが必要」と言った前向きなご意見を沢山いただきました。改めてこの第4ブロック学校長の皆様の、子供たちの未来を見据えた教育方針やお考えに深い感銘を受けました。私たち青少年委員も学校と協力して、子供たちの為に少しでも力になれる活動を進めていかなければならないと強く感じた懇談会でした。

★当日の懇談会会場の様子です。

◆教育委員会教育指導課長 八尋 崇様講話の様子◆



◆熱心に聞き入る参加者の様子◆

先ず結果からお伝えすると、制服については自分たちが来たいなと思う制服の形を選んで着る事が出来る様にする。それから校則については、自分たちが社会に出た時に困らない様に、自分たちで考えてそして自分たちを守る様な校則にしていこう、って言うのを子供たちと一緒に考えていきたいなっていうのが我々の設定したゴールです。

ここに、今回のテーマでもある『性の多様性』と言った話が、どの様にかかわってくるのかと言う所のお話しになります。

今日の話ですが、一番のスタートは『人権』です。

みんなの人権の意識、我々が子供の時、先生たちは当然自分達を呼び捨てで呼んでいます、でもそれが普通でした。今は1人1人を大事にしなくてはいけない時代になってきています。

その中で先ず最初に『呼び方』。

要は、あだ名は駄目だよ、呼び捨てダメだよと言った考え方です。

足立区においては名簿が『男女別名簿』になっていました。これも混合にしなくては？という話題が出ました。結果として、普段子供たちが目に見えるものについては、男女別にならないように工夫した『男女混合名簿』、でも保健等で使うもの、男の子、女の子を分けなければいけないものについては、きちんと分けた男女別名簿の運用となった訳です。

この『区別』なんですね。

やはり世の中で LGBT であったり、人々の多様性っていうのが認可されるようになってきたにもかかわらず、学校で使われている色々なものが変わってきていない現状があります。だからそれを徐々に変えていかなければという流れの中で、ようやくたどり着いたのがこの2つなのです。

その間に LGBT が入ってくるのですが、今、子供たちの中では自然に受け入れています。

「あ、そう何だね」「ふーん」、っていうぐらいで、実は子供同士の中では済んでいます。

ところが、そこに「ええ？」って言っているのは、大人たちなのです。

そして、残念な事に先生たちの中にもそういう意識の人が居なくもない状況です。

そこで区として LGBT のガイドラインを作りました。

そして、教育指導課としては、教員の人たちに、こういう場合はこういう声掛けしなくちゃ駄目だよっていうガイドライン、性に関する困り事マニュアルっていうのを作りました。

それを今、研修会とかで先生たちに指導している状況です。

ただそれだけでは恐らくですが、なんともしがたい状況もあるかと思えます。

まずは、子供たちが学校でそういう嫌な思いをしないように整えていかななくてはならない。

その為の1つは『制服』です。

今、制服については、1型2型3型と言う様に誰でも選べるような表記にしています。

全ての中学校で好きな物を選んで良いと伝えてもらっています。

これが今選べる標準服の状況です。

ではそれは LGBT の人たちだけものなのかと言うと、そうではありません。

女の子でもスカートが苦手と言う子もいます、そういう子はスラックスを選んで登校しています。

あとは、冬はやっぱりスラックスだよ、と言って履いている子もいる。

実際、地下鉄で出勤してくる時に、今、スラックスを履いている女の子を沢山見かけます。

きっと世の中ではそういう動きが進んできているのだろうな、だから足立区においても、そうやって

選べる制服にしていかないとならないと思って、色々学校と相談しながら選べる標準服っていうのを進めています。

では『校則』とは。

これも先ほど言った様に時代に合っていない。例えば私も今、小学生と中学生の子供がいるのですが、学校の説明の中で、靴下、それからこの前修学旅行に行ったのですが、パンツ、シャツに、ワンポイントがついてはいけないと書いていました。

足立区でも未だ表記の中に、下着は白のみです、靴下はこの色ですと書いてあります。

それは昔からの校則がそのまま残っているからです。しかし実際は、『先生ありません』と伝えると、学校では良いよとなります。

でも文書で残っていると、どうしてもそれが目に入ります、それがブラック校則だと言われてしまう訳です。だから先ずその文言を修正しましょうという事で、今全ての学校に修正をかけてくれています。それに合わせて、子供たちにもなぜそういう決まりだと思ふのかと、問いかけをしてもらっています。世の中の仕組みやルールは、みんなが生きやすいように過ごしやすいようにするために物事決まってくるのだと言う事を、子供たちも一緒に勉強しています。生徒が主体的に考えて守る学校の決まり、と言う様になるように今考えています。

これがしっかり整うまでは数年かかると思います。来年すぐ何かができることではありません。ただ、皆がスタートラインに立って、よし考えよう、自分の気持ちをちゃんと伝えていかなければ、と思うことが子供たちが大人になって、すごく大事なステージになるのではないかなと思います。

教育委員会で、『こうしなさい』『あしなさい』と言うつもりは一切ありません。

子供たちが自分たちのためになるようにやってほしい、その集大成がこの『制服と校則』です。ただ、これってホームページでドーンと出してしまうと正しく伝わらないもので、『足立区こうしたらしいよ』みたいな噂だけが飛び交ってしまいます、なので今日の『性の多様性』と言うよりも、単に『多様性』なのです。ここに『性』が付く事自体がもう今の時代としてあわない。みんなそれぞれ色々な考え方があって様々なライフスタイルがあり、そこにできるだけ区立学校として対応していかなくてはならないと考えています。

以上

令和 4 年度 足立区青少年委員会 第 5 ブロック教育懇談会

開催日	令和 4 年 7 月 7 日 (木)	会場	弥生小学校会議室
時間	18:00~19:30		
参加者	第四中学校、第十一中学校、弥生小学校、弘道小学校、弘道第一小学校、足立小学校 各校校長・PTA 会長・青少年委員 足立区教育委員会子ども家庭部青少年課 山田課長 青少年委員会 多島会長、松崎副会長、眞田第 9 ブロック長 合計 21 名		
会議次第	開会の辞、会長挨拶、教育委員会挨拶、来賓紹介、 各校紹介及び学校の現状、懇談会、総括・講評、閉会の辞		
テーマ	七夕に子どもたちへの願いをこめて		

[懇談会記録]

1. 開会の辞 足立区青少年委員会第 5 ブロック長 前島 政章 委員
 弥生小学校を会場として七夕に関するテーマとして様々な情報を共有していきたい。
 また、新任各位の顔合わせの機会となればと考えています。
 コロナ感染発生状況が増加傾向にあり学校運営にも影響が出てくる現状等も話題としたい。

2. 会長挨拶 足立区青少年委員会会長 多島 三好 委員
 行事ができない 2 年間であった。昨年は 13 ブロック中半分程度のブロックが教育懇談会を実施しているが、話題としては新型コロナ禍の中での教育現場のご苦勞を共有した。それ以降、陽性者数の減少となり、回復の兆しが見えてきた矢先に、また陽性者が増加傾向の状況もあり、マスクを外したくてもなかなかマスクを外せない状況がある。
 教育現場においても教材のデジタル化による変化や自宅学習や自宅授業を体験する機会にはなかったが、失ってしまう体験がある事も見逃さないように話題として頂きたい。

3. 教育委員会挨拶 足立区教育委員会子ども家庭部青少年課長 山田 勉 課長
 日頃より教育委員会へのご理解、ご協力と子供たちを育む地域活動に感謝しています。
 自身は足立に生まれ、弥生小を卒業し、四中で学び育った。当時は自然豊かな環境のある地域であった事を記憶しています。
 子育て四訓として、乳児は肌を離さず、幼児は手を離さず、少年は目を離さず、青年は心を離さず、という言葉がある。子供の成長に合わせて、家庭から地域社会へと関係が拡大して相互に連携していく事で成長していく。懇談会を通じて、このような関係が維持されていることを学ばせて頂く所存であります。

4. 御来賓紹介 佐藤 委員
 委員から校長、PTA 会長を紹介

5. 懇談会

5-1) 学校長から各校の現状報告と課題について発表

【弥生小】

【佐藤校長】

子供のケンカ、トラブルが散見されている。

いじめの発生も月に1, 2件発生している。

なかなか改善できないのが、不登校や登校渋り、しかも長引く傾向がある。

しかし、日光移動教室については不登校児童も含めて全員参加できた。

授業中に動き回ってしまう児童もいる。学年に1人程度は徘徊も増えているので学校の外には出ない約束を守らせているが、昨日学校を出て、帰宅してしまいそうな児童が発生し、家庭に連絡をした事案も発生した。

西新井アリオのゲームセンターでお金を使いたくて同学年の友達で金銭のやり取りやトラブルが発生している。双方の言い分に食い違いがあるが、累積金額が10万円超のトラブルに発展した。

その他にも栗島小との近隣公園でのトラブル等が年に3, 4回繰り返されている。

また、マスクを外さない子供たちが多くいることをご理解いただきたい。

昨年度の卒業生だが、家庭の事情で、夜間は子供だけで過ごしている家庭があった、その卒業生は四中へ入学しているが、家庭の状況は改善されていない。

【倉田 PTA 会長】

地域コミュニティの「開かれた学校づくり協議会」の存在によりスムーズに P T A 活動ができた。今年は娘が卒業年度であり、私も P T A を卒業するため、後任の保護者にも「開かれた学校づくり協議会」の存在を伝えていきたい。

【弘道小】

【井上校長】

幼稚園、保育園関係者と情報交換したが、子供たちが姿勢の保持ができない点が話題になった。この原因としては新型コロナが直接的な原因になっているとは考えにくく他の要因があると思っており、たくましさの喪失、心の臆病さの影響があるのではないかと感じている。登校時の見送りの保護者が依然と比べて多くいたり、大人が何事も臆病になってしまっているのではないかと。学校だよりも書いたが、日本人が内向き志向が強くなっているため、子供たちにはたくましさや夢や希望を育む教育の実現のために地域と協力して進めていきたい。

【伊藤 PTA 会長】

昨年より P T A 筆頭会長として関わってきた。今年の活動として、保護者が行う子供たちへの見まもり活動が負担だとの声もあり、ボランティア制として見守り名札をつけて、朝夕の登下校時に活動ができるようにしている。

名札をつけていることにより、P T A 関係者であることが子供たちにも理解しやすくなり、活動中に子供たちも安心して挨拶をしてくれるようになってきた。

今後は「開かれた学校づくり協議会」においてもこの名札を紹介して、地域の見守り活動へ拡大していきたいと考えている。

【弘道第一小】

【鈴木校長】

コロナ前のように子供間のトラブルが増えてきている。金銭のトラブルや、SNS等の使い方等の問題も確認されている。

毎日の登校時の服装が同じでお風呂に入れているか等、家庭内の様子が心配な児童もいる事を児童相談所と連携してフォローしている。

子供たちの育ち方もそれぞれではあるが、低学年においては、新型コロナとともに入学している児童の印象としては、自分の興味のある行動は動ける一方、子供たち同士の関係性の機会を奪われてしまったこともあってか、我慢や調整をする事ができるように指導が必要と感じている。

学習指導要領も改定される中で、学習内容は元より勉強のやり方がわからない児童も多い。現在の指導要領の中で、特に心がけたい点として、学び方を学ばせる、という指導が大切だと考えている。

自身の教員生活を振り返りながら、児童が自ら学ぶ力を身に付ける事ができるように指導していきたい。

【山本 PTA 会長】

P T Aとして今年も地域の方と関わりを作りつつ、校外パトロールを実施している。

去年はパラスポーツ体験イベント、飲食を伴わない活動として、コロナ禍でもできる事を実行している。ポッチャ、ゴールボール、ターゲットボール、卓球バレー、スポーツ推進委員の協力もあって競技用車いすを借りる事もできて、124名の児童が参加してパラスポーツを体験する行事ができた。不自由さを体験することにより、気付き、考え、行動へと繋がっていくと考えている。

子供には体験が大切との思いから支援をしている。

小学校3年生の子供たちは入学時からコロナ禍にあり家庭及び学校での成長が心配でもある。

【足立小】

【角田校長】

子供たちは、様々な制約があるなか、感染症対策でやるべきことをこなしながら、できる事を楽しくやれていると思っている。

個別最適な学びを求められているが、その一つのツールとして、タブレットの活用があるが、一人ひとりの違いを認め個を優先するが故に何でも許されているとの誤解を生んでしまっている。教員としても子供たちに集団としての規範意識の芽生えを意識してバランスをとりながら教育する事を課題と考えている。

統合後10年になり周年行事もあり、過去を振り返るだけでなく、今後10年先を考えてSDGsの取組や自分の未来を考える取組をしていきたいと考えている。

【松田 PTA 会長】

足立区へ引越して7年目になります。

PTAの事務作業を単純化して余剰になった時間を別の活動に向けるようなことに取り組みたい。できない理由ではなくやるためにはどうするのかを考えている。

地域とのコミュニケーションを通じて、知らない団体や活動を知る事ができている。

廃材を利用して人力SLプロジェクトを3年後に、という面白いイベントを考えている。その実現のためにも地域の方の協力も頂きたい。

【第 11 中】

【星校長】

社会同様に日常を取り戻す活動をしている。

5, 6 月末修学旅行を終え、宿泊行事を経験した。小学校時代には体験できなかったことを楽しみにしていた生徒が多い。2 泊 3 日は和やかな状況というよりは、ストレスの多い環境であった。発熱があると新型コロナを疑う状況で心休まらない。

抗原検査を出発前、到着後にするキットがあるので現地に持参、防護服、フェイスシールドも持参した。2 名ほど発熱があり、検査は実施したが陰性であった。

このような状況で行う行事は教員へのストレスや疲労の面で大きな負担になっている。

夏になり熱中症が心配。

学校教育現場では、生徒がマスクを外す事は不可能である。2m 離れて会話をする事自体が無理な環境である。

子供たちもマスクが習慣化してしまっており、外せない事も致し方ない現状があるが、現場では屋外の活動においてはマスクを外すように指導している。言うは易しだがマスクを外せない現実を知って理解して欲しいと考えている。

【北村 PTA 会長】

小学校でも P T A 会長を経験しているが、やはり中学校は子供の成長に合わせた P T A としての関わり方が大きく異なる事を学んだ 2 年であった。

子供たちにとっては、その学校での思い出（良いも悪いも含めて）を残せることが大事と思っている。地域の方には、P T A の活動方針を理解してもらいながら協力をお願いしている状況です。

【第 4 中】

【難波校長】

私が見つかる事ができていないだけかもしれないが、見た範囲ではやんちゃな生徒が見あらず、集団を乱す生徒もいない。

女子生徒の人数が若干多く、女子生徒がお姉さん役、男子生徒が弟役のような関係で男女ともに和やかに生活している。

魚沼の宿泊活動では、民宿の方から大人しい子供たちだと言われた事が印象的であった。

主体的な学び、という点を大事にしているが、経験する場が作れないのが心配な点と思っている。

4~5%の生徒が不登校であり、いじめではないが集団が苦手、音が苦手、雑音が苦手、といった感性をもつ敏感な子供たちが多い印象である。

教室に入らずに別室に登校している子供もいる。

一部の生徒は登校サポーターによる送迎支援をしているが、家庭のトラブルを呼ぶケースもあり、気を使いながら対応してもらっている。そんな不登校の生徒でも魚沼には行っている点は喜ばしいが不思議でもある。

運動会があったが、長距離走の種目ではマスクを外すよう強めの指導をしているが、渋々マスクを外したが口元を手で覆うようなしぐさをしている生徒がおり、思春期による恥ずかしさの心情なのかもしれない。

制服にベストを採用しているが、女子生徒が身体のラインが隠せるとの思いからか、夏になってもベストを着ており、ここにも思春期特有の恥じらいの心情が影響していると感じている。

【奥山 PTA 会長】

P T Aの現状として、今年になって行事活動の支援等に関わる事ができたものの、目新しい活動が積極的にできている状況ではない。

現在中3の子供たちは小学校の卒業式も簡易的で、入学式もできていないので、生徒も保護者も寂しい、悔しい思いがある。このことから卓球大会において、3年生の保護者だけ限定的に見学を認められて見学させてもらう事ができて、参加した保護者は大変喜んでいて。

このような取組が継続できるかどうかは不透明だが、可能な限り保護者の関わりを実現していきたい。都大会に出場する事になったが、競技中でもマスクが外せない状況がある。

酸素不足があるので心配。子供たちには判断する力を養ってほしい。

5-2) フリートーク

【前島委員】

弥生小のHPを拝見したところ、校長先生の挨拶に、コロナ禍を生き抜く力、という言葉があった。どのような指導を通じて実践しているのか。

また、P T Aのイベント企画でおやじの会の企画を紹介してほしい。

【弥生小 佐藤校長】

コロナ禍により我慢すること、消極的になる事を学んでしまっている。

やはり経験する場を失ってしまったので、少しずつでも経験、体験の場を取り戻して言ってほしいとの思いがあった。HPの制作時のことであり、今年はずっと早くコロナ禍が回復していく見通しがあるなかで検討したのだが、また陽性者数が増えてしまっているのが残念である。

【弥生小 倉田 P T A 会長】

例年は校内スタンプラリーを実施していたが、校内では密になる事から、今年度は校庭を使い、水遊び、水鉄砲のイベントを考えている。

【三國委員】

自身の仕事として保育園で栄養士をしている。自由になり過ぎているとの感想があったが、足立区の保育方針として、子供には主体性と自由を優先する指導が理想とされており、食事の際も、子供が食べたい物を食べたいタイミングで、との指導があったりする。私個人としては違和感があるが、このような環境から小学校に入学することになると子供たちにとってはギャップを感じてしまうと感じている。

主体性を優先している保育園、幼稚園指導がある。

マスクを外せない現状については、教育現場との苦悩を共感した。

【弘道小 井上校長】

マスクについては色々な考えがあって、調整が難しい。着けたい児童、外したい児童のお互いを尊重する指導をするしかないと感じている。外すことを強要する事ができない点を理解してほしい。

【第4中 難波校長】

運動会では長距離競技で多少強めにマスクを外すように指導はしたが、子供たちの視線が冷ややかであった。

【眞田委員】

花畑で学童保育士をしている。

校長先生には各校の学童保育士とのコミュニケーションを図って欲しい。

子供の成長を見る機会に触れている期間が長いので、面識のある子供たちが優しい心を持って健やかに成長している姿を目にする度に、地域や教育現場の関係者に感謝の気持ちでいっぱいである。

【三國委員】

学童保育では子供たちがお世話になっている事を感謝している。開かれた学校づくり協議会の場でも放課後子供教室の関係者の話を聞く機会があればと思っている。

【櫻田委員】

先日、朝の挨拶活動を通じて子供たちがマスクに汗をにじませながら登校している様子を見て心配になった経緯があり、子供たちのマスクの注意点について武田邦彦先生に質問してみたところ、浅い呼吸を繰り返していると、知らず知らずのうちに窒息状態になるので危険であることを知った。子供たちも様々な感情があり、容易にマスクが外せる状況ではない事情を理解できた。

私自身は可能な限りマスクを外して生活するよう心がけている。周囲の強圧的視線や着用の要請を受けた事はないが、そのような場面では即時マスクを着用できるように準備をしながら、不要な場面でのマスク着用を中止している。

【足立小 松田 PTA 会長】

10年以上前だが、NHKの情報番組で心の病になってマスクを外せなくなってしまったという現象について見たことがある。

【青少年課 山田課長】

熱中症対策としてマスクを外すべきだとの視点で見えていたが、現場の苦悩や校長先生の苦労を感じる事ができた。

現場の判断でできる事とできない事があり、保護者、地域の理解を広げて取り組んで頂きたい。

【弘道小 伊藤 PTA 会長】

魚沼での発熱時の抗原検査の対応について、判断をされた経緯を聞かせてほしい。

生徒の平熱と措置の基準等があれば教えて頂きたい。

【11 中 星校長】

隔離、検査の判断に至るまでに、体温測定を何度か行い、上昇傾向にある事を確認して養護の先生の判断の上で実施に至った。一番避けたかったのは、魚沼まで保護者に迎えに来てもらうような結果になる事であったが、そのようにならないよう、教員が夜を徹して体調を観察する対応を行った。保護者にはご心配をかけたかもしれないが、何事もなく行事を終える事ができたのは良かった。

6. 総括、講評 足立区青少年委員会副会長 松崎 顕治 委員

昨年と同じ課題を抱えて教育活動をしてきた現場の苦労を理解する事ができた。

私も武田先生のファンでよく話を聴いており、マスクの効果が少ないとの説明も聴いたことがある。

何が正しいか、間違っているということではなく、世間体や見た目の判断で行動しているのが現状と
思っている。

中学校になると思春期を迎えて、行動への影響が出てしまうことは目にする。鹿浜では夏でも長袖の
シャツを着て過ごしているのが普通で、それぞれの地域の特性もあると感じる。

ここ10年の5ブロック地域の子供たちの校外生活を観察していると、この頃の子供たちは行儀も良く
また、よく勉学に励んでいる様に見える。

やはり周辺地域の協力が子どもたちの健全な生活に影響を与えているものと評価している。

7. 閉会の辞 桑原 里保 委員

令和4年度 足立区青少年委員会 第6ブロック教育懇談会

開催日	令和4年11月21日	会場	綾瀬小学校 多目的室
時間	18時30分～20時10分		
参加者	足立区教育委員会青少年課 課長 山田 勉 氏 足立区立青少年委員会 会長 多島 三好 氏 足立区青少年委員会 副会長 松崎 顕治 氏 足立区青少年委員会 5ブロック長 前島 政章 氏 綾瀬小学校・東綾瀬小学校・東加平小学校・東湊江小学校 北三谷小学校・大谷田小学校・長門小学校・東綾瀬中学校 蒲原中学校【9校の校長・副校長・PTA会長・青少年委員】 計39名		
会議次第	司会・開式 佐宗委員 主催者挨拶 6ブロック長 関本 義則 来賓紹介 三枝委員 来賓挨拶 足立区教育委員会青少年課 課長 山田 勉 氏 足立区立青少年委員会 会長 多島 三好 氏 各学校紹介 各校長先生より一言頂く 講評 綾瀬小学校 校長 臼田 治夫 氏 閉会 早川委員 記録 田島委員		
テーマ	コロナ禍と現在で、学校独自の取り組み		
<p>[懇談会記録]</p> <p>令和4年度については、令和3年度同様に講師の方は呼びせず、自己紹介を始め各学校のコロナ禍の現在と独自の取り組みについて各校長先生より報告を頂く形で行われた。</p> <p>最初に青少年課課長の山田様よりご挨拶を頂き、青少年委員会会長の多島様からもご挨拶を頂いた。その後各学校の校長先生よりコロナ禍の現在と独自の取り組み及び今後の学校行事について報告・連絡を頂いた。</p> <p>どこの学校も実施の仕方や取り組み方も工夫しており、今年の学校行事については計画的に行われていた。</p> <p>その後、講評にて綾瀬小学校校長の臼田様より、今年新校舎の建替え報告と新しい標準服の紹介、図書館のオープン（土日祝日可）の報告をして頂いた。</p> <p>最後に青少年委員の早川委員より閉会の言葉を頂き、終了となる。</p>			

令和4年度第6ブロック 青少年委員教育懇談会



令和4年度 足立区青少年委員会 第7ブロック教育懇談会

開 催 日	令和4年7月11日	会 場	足立区立谷中中学校体育館																						
時 間	16:30~18:00																								
参 加 者	足立区子ども家庭部青少年課長 山田 勉様 足立区青少年委員会 多島会長・原田副会長・松崎副会長・小林ブロック長（第10ブロック） 都立足立東高等学校、区立おおやたこども園、第12中学校、第13中学校 谷中中学校、中川小学校、中川北小学校、中川東小学校、辰沼小学校 六木小学校から各校の校長先生・開かれた学校づくり協議会・PTA会長、 主任児童委員、スポーツ推進委員、第7ブロック青少年委員 計43名																								
会 議 次 第	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="width: 40%; text-align: right;">司会 西村 委員</td> </tr> <tr> <td>開会の辞</td> <td style="text-align: right;">西村 委員</td> </tr> <tr> <td>当ブロック長挨拶</td> <td style="text-align: right;">三橋 委員</td> </tr> <tr> <td>足立区青少年委員会挨拶</td> <td style="text-align: right;">多島 会長</td> </tr> <tr> <td>来賓挨拶</td> <td style="text-align: right;">足立区子ども家庭部青少年課長 山田 勉様</td> </tr> <tr> <td>来賓紹介</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足立区青少年委員会参加者紹介</td> <td></td> </tr> <tr> <td>各校の発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加校代表</td> <td style="text-align: right;">足立区立谷中中学校校長 武藤 秀徳様</td> </tr> <tr> <td>閉会の辞</td> <td style="text-align: right;">寺島 委員</td> </tr> </table>				司会 西村 委員	開会の辞	西村 委員	当ブロック長挨拶	三橋 委員	足立区青少年委員会挨拶	多島 会長	来賓挨拶	足立区子ども家庭部青少年課長 山田 勉様	来賓紹介		足立区青少年委員会参加者紹介		各校の発表		質疑応答		参加校代表	足立区立谷中中学校校長 武藤 秀徳様	閉会の辞	寺島 委員
	司会 西村 委員																								
開会の辞	西村 委員																								
当ブロック長挨拶	三橋 委員																								
足立区青少年委員会挨拶	多島 会長																								
来賓挨拶	足立区子ども家庭部青少年課長 山田 勉様																								
来賓紹介																									
足立区青少年委員会参加者紹介																									
各校の発表																									
質疑応答																									
参加校代表	足立区立谷中中学校校長 武藤 秀徳様																								
閉会の辞	寺島 委員																								
テ ー マ	『コロナ禍が教育現場を大きく変えた』																								
[懇談会記録] 本年はコロナ禍により各校からの報告とさせて頂きました。 <先生方より> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、在籍教員、新任教員が出来ないではなく共に考え成長できたと感じた。 ・子供達にとって学校、教師の意味を考え感じる事が出来た。 ・活躍する場が減り自己肯定出来る子供が少なくなった感じがする。 ・子供達がタブレットを扱う技量が高い、教員も同じレベル以上でなければならぬので研修などしている。 ・コロナ禍の中、大声で話す事が出来ない中、挨拶、歌声などの数少ない声出しの機会に良い声が出せるなど褒める。 																									

- ・宿泊行事を体験せず中学生になっているので、小さな事から指導しなければならない。
- ・先生方も各行事を経験してない若いメンバーが多い為、コロナ以前同様の行事を行うにあたり、指導も難しいものがある。
- ・デジタル化される中で子供達の新しい面を発見できた。
- ・不登校な子供がリモートで参加出来るようになった。

<開かれた協議会より>

- ・コロナ禍で各行事が無くなり協力出来ない。
- ・2年間土曜授業が出来なかった。
- ・子供達と直接係ること事が出来なくなり寂しい。
- ・現在の状況下で何が出来るかが課題。

<PTA 会長より>

- ・生徒達の進学への意欲の低下が感じられる。
- ・マスクを取れない子供が多い。

<スポーツ推進委員より>

- ・毎年行われる体力測定で全般的に体力の低下を感じる。
- ・マスク生活に慣れてるため熱中症の心配があるのにマスクを外して運動できない。

<総評>

- ・谷中中学校体育館にて山田課長、役員の皆様を迎え開催いたしました。『コロナ禍が教育現場を大きく変えた』をテーマに各校の皆様より様々な現状報告、情報交換等がありました。
短い時間ではございましたが非常に有意義な懇談会となりました

書記 関 広太郎

令和4年度 足立区青少年委員会 第8ブロック教育懇談会

開 催 日	令和 4年 7月 4日	会 場	栗島住区センター
時 間	18時30分～20時30分		
参 加 者	足立区こども家庭部青少年課 課長 山田勉 足立区青少年委員会 会長 多島 三好 足立区青少年委員会 ブロック長 遊馬 正子 [青井小学校] 校長 鯉沼 哲 / PTA会長 安田 直人 [加平小学校] 校長 倉島 敬和 / PTA会長 大久保 孝雄 [栗島小学校] 校長 淵脇 薫 / PTA会長 阿部 大介 [東栗原小学校] 校長 伊地知 広竹 / PTA会長 橋本 隼人 [平野小学校] 校長 小用 昇 / PTA副会長 伊藤 法哉 [青井中学校] 校長 菊入 伸二 / PTA会長 山田 幸一 [栗島中学校] 校長 豊崎 努 / PTA会長 笹尾 健臣 [東島根中学校] 校長 大瀧 訓久 / PTA会長 雨宮 友子 [青少年委員] 杉村 吉紀 澁谷 義光 嶋田 健一 鈴木 奏子 小野 明 本田 隆志 米永 博【計26名】		
テ ー マ	G I G Aスクール構想～タブレット端末の利用について		
会次第	*主催者挨拶 *青少年委員会会長挨拶 *来賓挨拶 *各学校自己紹介 *各校発表 *講評 *閉会のことば		
<p>[懇談会記録]</p> <p>各校のタブレット活用状況を発表していただく予定でしたが、実施内容は各校で差異はないため、足立区より一足先に文京区教育委員会で「G I G Aスクール構想」を実施された、加平小学校 倉島校長より、タブレット活用実施側の学校が直面する現状に加え、運営側である教育委員会のご苦労話を交えた、大変貴重で興味深いお話を伺いました。</p> <p>出席者から相次いで質問があり、保護者の関心の高さを感じると共に、予算的には厳しい状況の中、学校が工夫をしながら対応されていることがわかりました。</p> <p>(発表内容より抜粋)</p>			

□ 2019年12月文部科学省「GIGAスクール構想」について

一人一台端末は令和の学びの「スタンダード」

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に
個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成出来る教育ICT環境の実現へ

○ 端末機器の調達状況(経緯)について

文科省より令和2年度末までの一人一台端末の配布(実現)

日本中で端末の調達が始まり端末不足に(足立区は約5万台必要)

windows 端末・i pad・クロームブック 自治体(地域)によって

導入機器に違いがある。(足立区はクロームブック)

○ 学校でのタブレット端末の利用について

足立区は、昨年度9月位に全児童・生徒に配布完了(約1年利用中)

タブレット端末の活用というよりは道具の一つとして利用

→ 紙に書かせる、黒板利用の授業はなくなる。

→ 授業の改善、効率を図る為に利用

操作スキル・モラル・情報活用能力を身につけさせる。

足立区は、児童・生徒一人一人にグーグルアカウントを付与

これまでの学習状況やどこでつまづいたか等が一目でわかる。

→ 区内中学校であればアカウント継続利用可

教員にも、グーグルアカウントを付与

→ Google Meet で、オンライン会議ツールとして利用可

□ 問題点、改善点等

○ 足立区の通信環境が悪く、改善されつつあるが、まだ問題がある。

○ 家庭のWi-Fi環境が千差万別

→ 足立区はWi-Fi環境がない子供には、SIMカードを配布

○ 各校とも端末移動時のバッグの工夫等で雨や破損の対策をしているが、

破損・故障の修理には時間がかかり(2~3ヵ月)、現在は代替機がほとんど
ない状況である。

令和 4 年度 足立区青少年委員会 第 9 ブロック教育懇談会

開催日	令和 4年6月20日	会場	花保小学校 体育館
時間	18時から19時		
参加者	花畑小学校・花畑第一小学校・花畑西小学校・花保小学校 桜花小学校・花畑中学校・花畑北中学校・花保中学校 各校、校長先生、副校長先生、PTA 会長（副会長）、青少年委員		
会議次第	1、 開会の辞 2、 ブロック長挨拶 眞田ブロック長 3、 教育委員会挨拶 白石係長 4、 青少年委員会挨拶 松崎副会長 5、 来賓紹介 6、 各校紹介 7、 閉会の辞 芦川副ブロック長 * 集合写真撮影		
テーマ	『つながり』～コロナ禍でどのように過ごしてきたか 学校プチ自慢		

【懇談会記録】

..... コロナ禍になり、開催することができない事態が続きましたが、

ようやく開催することができました。

校長先生方、並びに副校長先生方、PTA 会長が変わられた学校もあり

はじめてブロックでの顔合わせをすることができました。

..... 『つながり』をテーマに今なら会える。顔を合わせて伝え合いたいという想いで花保小学校体育館に、全委員集合！花保小学校 50 周年記念動画で周年を祝い、子供たちの笑顔を見て、コロナ禍どのように過ごしてきたのか、その中でのプチ自慢話を各校5分という短い時間でしたが、生き生きとした様子でお話しを頂いたのが印象的でした。

..... テーマの『つながり』から愛犬とのつながりのお話もあり、あたたかい会となりました。

..... 顔合わせのみではなく、学校・PTA・青少年委員のつながりも感じられた、貴重な時間となりました。

.....

.....



令和4年度 足立区青少年委員会 第10ブロック教育懇談会

開催日	令和4年12月2日	会場	竹の塚地域学習センター1階会議室
時間	18時00分～19時30分		
参加者	青少年委員会（多島会長） 教育委員会青少年課（山田課長） 青少年委員会（遊馬正子第4ブロック長） 湊江小学校、湊江第一小学校、保木間小学校、西保木間小学校、 竹の塚小学校、中島根小学校、湊江中学校、六月中学校、竹の塚中学校 各学校の校長、各PTA会長、PTA副会長 第10ブロック青少年委員（橋本、大西、武田、吉田（雅）、 芦川、小林、吉田（弓）、高橋） 参加者 34名		
会議次第	<p style="text-align: right;">司会 橋本 委員</p> <p>1. 開会のことば 武田 委員</p> <p>2. 青少年委員会第10ブロック長挨拶 小林ブロック長</p> <p>3. 足立区青少年課 課長挨拶 山田 勉 様</p> <p>4. 青少年委員会会長挨拶 会長 多島 三好 様</p> <p>5. 議 題 テーマ「コロナ禍を経た先の活動について」 コーディネーター 第10ブロック長 小林 理恵子</p> <p>① ディスカッション 「コロナ禍で途絶えた、子どもたちと地域の方々を含めた 人との関りや繋がりをどのような形で再開していくか」 「コロナの影響を受けてよい改善だったことについて」</p> <p>② 講 評 保木間小学校 校長 金泉 隆一 様</p> <p>6. 閉会のことば 大西 委員</p>		

[懇談会記録]

今年度は7月の開催予定が、新型コロナ感染拡大のため12月に延期となった。昨年は校長先生・PTA会長、青少年委員のみでの開催だったが、規制緩和の流れもありPTAからの参加を2～3名に増員した。

事前アンケートの回答をもとにディスカッション形式での開催とした。

◎「コロナ禍で途絶えた、子どもたちと地域の方々を含めた 人との関りや繋がりをどのような形で再開していくか」

- ・大学と連携し、清掃工場の見学会を教員を目指す大学院生と中学生生徒会、開かれた学校づくり協議会の地域の方々で参加。
- ・ボランティア活動ができる派遣先をPTAが探し出す。
- ・中学生ボランティアが小学校の図書ボランティアに参加。(読み聞かせ)
- ・小中の交流で互いの挨拶運動に参加。
- ・夏休みの小学校補習教室に中学生が先生として参加。
- ・縦割りの繋がり、蜜を避け児童集会のゲームを工夫して行った。
- ・リアルな体験をゲストティーチャーによる学習機会を得ていく。
- ・まつりの規模を縮小し、内容を精査して実施。(飲食禁止、時間短縮)
- ・行事の規模を縮小しても実施することが大事。(先輩の姿を後輩に見せる)
- ・PTAの役割として次の世代PTAに繋げていく。(まつりの準備)
- ・いじめの件数が増加しているのは、人との関わり方が下手なため。(あいさつが大切)
- ・自然との関わりも大切(高学年によるビオトープ作り、農業委員会による千寿ネギ栽培)
- ・勤労感謝集会で日頃から支えになっている方に、子どもたちから感謝状を送る(放課後子ども教室スタッフの方、図書ボランティアの方など)

◎「コロナの影響を受けてよい改善だったことについて」

- ・運動会では保護者鑑賞日、児童鑑賞日を設けたことで、他学年をじっくり見ることができた。学年別の鑑賞にもメリットがあった。(見やすい、時間を有効に利用できる)
- ・連合音楽会の壮行会で子どもたちの思いを見ることができた。(できなかつた高学年の悔しさ、その分も頑張る4年生)
- ・保護者の方の理解と協力。(行事の中止や人数制限、感染対策の徹底)
- ・PTAソフトボール大会を人数制限、徹底した感染対策で実施。
安全にできたことを大人が証明できた。

- PTA 行事を改めて考え直し、無駄なことは省いていく良い機会。
- PTA ラインワークス導入、集まる回数を減らして負担を軽減。
Wi-Fi 導入による作業の効率化。
- 当たり前だったことが実は大切だった、楽しかったと気づかされた。

◎ 保木間小学校 金泉校長先生の講評

コロナ禍の中、地域の方と接する機会がなかった。今日、話しを聞いたこと、情報交換できたことがとても良かった。各学校、PTAが子どもたちのために少しでも関わりを持てるようにと工夫していることが、この地域の良いところ。

行事をきっかけにまた感染が広がってきている。感染対策に気を付けて出来ることを無理せず子どもたちの安全を考えて進めていくことが大切。

意見交換の中にもあったように、子どもたちの横の繋がりも保護者の横の繋がりも減ってきている。良い方法を皆さんと話し合っただけで考えていきたい。

教員の働き方改革について。皆さんと同じ働く人間であると理解していただき、地域の方々の協力をお願いしたい。



令和4年度
足立区青少年委員会
11ブロック 教育懇談会

ご挨拶

日頃より、青少年委員の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

ブロック教育懇談会は、地域内の小中学校と担当青少年委員との連携を深め、課題を共有しつつ、適切な対応を模索していくことで青少年の健全育成に寄与することを目的として例年実施して参りました。

今年度、3年ぶりの実施に向け各委員準備を重ねてまいりましたが、コロナ禍における蔓延防止措置に鑑み、やむをえず書面にての開催となってしまいました。懇談会に向けてご準備いただいた各校長副校長先生方、PTA会長の皆様方には大変申し訳ありませんでした。

今回の開催にあたり、各校からいただきました書面を取りまとめましたので、懇談会報告書としてお配りいたします。ご確認いただきますようお願いいたします。

令和4年12月吉日
足立区青少年委員会
11ブロック長
磯 洋一

目次

1. 西新井第二小学校 「コロナ禍での学校の取り組み」
 2. 西新井中学校 「コロナ禍における教育活動について」
 3. 西伊興小学校 「ウイズコロナにおける教育活動について」
 4. 東伊興小学校 「コロナ禍における学校運営に関して」
 5. 栗原北小学校 「ウイズコロナにおける教育活動」
 6. 第十四中学校 「コロナ禍における学校運営」
 7. 伊興小学校 「コロナ禍における学校行事やPTA活動について」
 8. 伊興中学校 「コロナ禍における学校運営とPTA活動について」
- ※ 青少年委員 11ブロック 「青少年委員のご紹介」

「コロナ禍での学校の取り組み」 西新井第二小学校

すでに3年目に入ったコロナ騒動です。でも、騒いでいるだけで3年経っても世間に何の進歩も見られないのが残念です。慣れたという点ではありますが、それによって第7波のような爆発的感染が起きています。確かにウイルスの感染力の違いもありますが、過去より圧倒的に感染者数が多いのにあまり騒がなくなったのは、人間が進歩したのではなく、慣れてしまっただけです。いつか、コロナではない未知の感染が始まると、またガタガタするのでしょうか。学校でのコロナ禍における留意点は、次のような観点に分類して対応しています。

①感染予防への取り組み。

まず大切なのは、感染を広げずに沈静化させることです。どこでもやっているように、3密の回避、手洗いやアルコール消毒の励行、給食時の同一方向を向いての黙食、集団内でのマスク着用の奨励などを行っております。しかし、元気な子たちに我慢を強いる行動規制は忍びないものもあります。美味しく楽しいはずの給食をしんみりと食べている様子は可哀想にも思えます。

②学力の保障

コロナ禍を理由に学力の低下を仕方ないとするわけにはいきません。区内では莫大な予算をかけて子ども1人に1台のタブレットが配布されました。この投資に対して教員は効果的な活用に取り組んでいます。しかし、リモート学習では、かえって不登校を助長させてしまうという現実もあるなど、ICTの導入は試行錯誤が続く時となっています。

③心の育成

コロナ禍の始まりの頃は、感染することが罪悪のような扱いをする人間がこの地域にもいました。いわれのない差別をしない、正しい人権感覚を子どもたちに備えさせる良い機会とも言えます。

このように観点を整理することで、闇雲に慌てず騒がずに取り組んでおります。

校長 吉川浩司 平成29(2017)年4月1日練馬区立谷原中学校副校長より異動、着任 6年目

副校長 富岡将人 令和2(2020)年4月1日足立小学校主幹教諭より異動、着任 3年目

PTA会長 山下友美 平成30(2018)年5月就任 5年目

(担当青少年委員 森岡 裕子 6期目)

「コロナ禍における教育活動について」 西新井中学校

感染予防に留意しながらも、学校行事や生徒会活動、部活動ではできる限り生徒主体で教育活動を進めている。授業でも、ペア、グループ活動や話し合い、発表、実験等は距離感を保って行うことを推進している。感染状況によっては、学級や学年でタブレットを活用し、クラスルームによる連絡や授業配信や課題配布も実施している。本校は区内でも生徒数が多く学校規模も大きい方なので、実施の可否や実施形態の工夫など苦慮することが多いが、ブロックや区内の同規模校と連携し情報交換する中で、生徒にとってよりよい方向で教育活動が進められるよう取り組んでいる。

- ・学年単位での集会や講演会、校外学習などの活動は実施。
- ・修学旅行は昨年度 1泊2日京都、今年度 2泊3日奈良・京都で実施。
- ・運動会は全校で実施。（昨年度は無観客、今年度は3年保護者1名のみ参観）
- ・文化祭は学年単位で展示、合唱コンクールを除く舞台発表の形で実施。（昨年度は無観客、今年度は検討中）
- ・合唱コンクールは昨年度3年のみギャラクシティを借りて12月に実施（3年保護者参観）今年度の実施については未定。

校長 齋藤 直樹 令和3年(2021)年4月、花畑北中学校より異動、着任

副校長 清野 淳子 令和4年(2022)年4月 加賀中学校より異動、着任

PTA会長 宮本 明彦 令和4年(2022)年4月 PTA会長に就任

（担当青少年委員 島田 香菜子 1期目）

「ウイズコロナにおける教育活動について」 西伊興小学校

(1) ICTを活用したハイブリッド型授業や学校公開

ア ハイブリッド型授業

- ・昨年度9月から緊急時に実施。対面型とリモート型の選択をして学びを継続。
- ・通常登校に戻ってからも欠席者へのライブ配信を実施。
- ・不登校傾向の強い児童のクロームブック活用（校内別室登校や放課後）。

イ ハイブリッド型学校公開

- ・事前に参加希望を集計し、教室の対面参観を実現。リモート配信も同時進行。

(2) 学年ごとの教科水泳指導及び夏季水泳指導

ア 教科水泳指導

- ・昨年度クラス単位で1～2時間 ⇒ 学年単位で約10時間実現

イ 夏季水泳指導

- ・学年単位を1日2回 ⇒ 特別支援学級も含め一人当たり3～4回を計画

(3) 創立50周年記念事業とリンクしたSDGsへの取り組み

- ・全学年実施。7月9日の土曜授業で全クラスをリモート配信。
- ・50周年記念誌にも取り組みを掲載予定。

(4) 個別最適な学び

- ・放課後や休日におけるAIドリルの活用、サマースクール、そだち指導、あだち学習教室
- ・デジタル教科書の活用（教員間の差はまだある ⇒ 少しずつ格差をなくしていく）

(5) 健全育成の取り組みについて

ア いじめ防止に関する取組

- ・令和3年度いじめ認知件数709件は全て解決済み+いじめを原因とする不登校は0

イ 不登校児童への取組

- ・背景が一人一人異なるため、チームで最善を尽くしている（現在5名）

(6) 新型コロナウイルス感染症対策

- ・消毒に関しては少しずつ軽減（本来の教員の職務ではない） ⇒ 手洗いとマスク活用
- ・清掃活動をどのように復活させていくが課題

(7) 図書館活用状況

- ・児童一人あたりの貸出冊数 令和元年度25.9冊 → 令和3年度31.9冊

- ・あじさい読書旬間（6月）とコスモス読書旬間（10月）の設定

→ 特に6月は2年前の倍にあたる約4000冊の貸出

(8) 放課後子供教室や開かれた学校づくり（学び塾）との連携

- ・体力向上の一助として捉えている

校長 金田耕一 令和3年(2021)、六木小学校校長より、西伊興小学校校長に着任

副校長 戸田道寿 令和2年(2020)、江戸川区立清新ふたば小学校より、西伊興小副校長に着任

横濱 陽 令和2年(2020)より、西伊興小学校PTA会長に就任

(担当青少年委員 佐藤 正浩 3期目)

「コロナ禍における学校運営に関して」 東伊興小学校

令和4年度に入り、東伊興小では「中止ではなく、どのようにしたら実施できるか。」を念頭に置き、昨年度よりできることを増やしていくことをねらいとして、教育活動を進めています。

5月の体育発表会では低中高学年ごとの3部制開催として、参観者数を増やしました。また、6月の学校公開では制限を緩和したため、800名を超える参観者がありました。アンケートでは、どちらも好評の声を多数いただきました。ただ、全国的なコロナ陽性者数増と合わせるように、本校児童の陽性者数も増え、学級閉鎖をするクラスも出ました。しかし、リモート授業を取り入れるなどして、子供たちの学びを止めないように工夫をしています。

夏休み明けには、PTA主催の「かっぱまつり」が開催予定です。その後、高学年の自然教室や音楽会も控えています。どれも子供たちが楽しみにしている行事です。今後も、子供たちの学びだけでなく楽しみも止めないように、感染防止対策をさらに徹底して教育活動を行っていきます。

校長 三宅文夫 千寿双葉小学校より異動 令和4年(2022)4月 着任
副校長 長壁哲也 花畑第一小学校より異動 令和2年(2020)4月 着任
PTA会長 三和田直人 令和3年(2021)4月 就任
(担当青少年委員 佐々木 勝 2期目)

「ウィズコロナにおける教育活動」 栗原北小学校

○基本的な感染症対策の継続

- ・毎日の健康観察、マスク着用、換気、手洗い、来校者の手指消毒の継続。
- *マスクは運動時や登下校時等、熱中症の危険がある場合では外す。ただし、マスクの着用や外すことについては個別の理由に配慮し、強制しない。

○教育活動について

- ・教育委員会の方針「新しい生活様式を踏まえた教育活動について」に沿って教育活動を実施する。現在のところ、学びに支障がでるような制限は設けていない。
- ・欠席児童にもリモート授業を実施している(コロナ関連の欠席以外に、不登校やけがなどにも対応)。
- ・水泳指導は学年単位で実施した(8~10時間程度)。夏季水泳指導は学年単位で実施(各学年が5回)。
- ・前後左右距離をとった教室内の座席配置と、給食時の黙食は当面継続する。
- ・全校児童が集まる活動について、全校朝会や児童集会など、オンラインで代替できるものはオンラインで実施している。
- ・縦割り班活動など、児童が集まって活動することにねらいがある活動は、集まって実施していく。
- ・運動発表会は密にならないように3部制で実施した。
- ・学校公開では、平日は保護者が参観できる時間を指定し、教室に入れる保護者の人数が10名程度になるよう制限した。土曜日はオンライン配信した。まだ、距離の問題で全員を教室に入れることは難しい。
- ・自然教室や社会科見学等、バスを使用する校外学習も実施した。ただし、そのときの感染状況により中止・縮小もある。
- ・放課後子ども教室は、学年を分け、人数を制限して実施している。
- ・行事などの計画を立てる際に、感染状況に応じた制限・縮小案も用意している。いつ感染の波がきてもよいように備えると、直前で変更することが困難な行事・活動は計画が立てにくい。
- ・コロナ禍の3年間に中止となり、途切れた活動をどのような形で再開できるかが課題となっている。3年間のうちに教職員の異動、児童・保護者の卒業があり、校内にノウハウがなくなってきた。

校長 石川 雅章 令和4年(2022)に足立区立古千谷小学校より異動し着任
副校長 峰岸志保 令和3年(2021)に新宿区落合第五小学校より異動し着任
PTA会長 大塚光智 令和4年(2022)就任
(担当青少年委員 村山 新 1期生)

「コロナ禍における学校運営」

第十四中学校

令和4年4月1日に足立区立第十四中学校の校長に着任した塚原洋です。
どうぞよろしくお願いいたします。

歴史と伝統のある第十四中学校の教育活動を着任時から観てきました。コロナ禍でありながらも、生徒と教員が一丸となって取り組む授業での真剣な眼差しや、学校行事が再開し新たな第十四中学校の姿が現れてきているところです。

4月新入生237名を迎え、2年生241名、3年生261名の計739名でスタートを切った第十四中です。

区内中学校の中では生徒数の多い学校ではありますが、その強みを生かした教育活動が実践されています。

人は人でしか磨けません。生徒の心を耕しながら社会性を身に付け「第十四中学校に入学して良かった」と感じる学校生活を送らせて参ります。

次年度は標準服の変更を予定しており、令和の学校教育の代表となれるよう第十四中学校を発展、進化させる覚悟です。

PTAの皆様や開かれた学校作り協議会の皆様、おやじの会の方々、地域の皆様からの支援も充実しており、地域に愛される第十四中学校の素晴らしさを実感しています。生徒たちの成長を地域の皆様に認めてもらえるよう、教職員が一致団結しコロナ禍ではありますが、できる限りの教育活動を実践してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

校長：塚原 洋 令和4年(2022)4月に六月中学校より着任

副校長：佐藤 正敏 令和2年(2020)4月に大田区立志茂田中学校より着任

PTA会長：柴 大介 令和4年(2022)4月に就任

(担当青少年委員 島上 有紀 4期目)

「コロナ禍における学校行事や P T A 活動について」 伊興小学校

令和4年度の学校行事については、コロナ禍であっても、なるべく通常の活動と同じようにできることは工夫して行っていこうと考え、実施している。

5・6年生の宿泊行事も今年度については、2泊3日の日程で行うことができた。5年生は、千葉県の鋸南へ、6年生は栃木県の日光へと子どもたちにとってコロナ禍の中、良い思い出の一つになったのではないかと思う。

運動会についても、昨年度実施できなかった団体競技も密集することを防ぎながら、それぞれの学年で内容を再検討し、競技できるように工夫し実施することができた。授業公開についても、感染対策を行いながら、保護者や地域の方々に子どもたちの学習の様子を公開することができてきた。

P T A 活動については、開かれた学校づくり協議会と協力して6月末に舎人公園において、ネイチャーゲームを行い、子どもたちが自然に親しむ活動に取り組むことができた。しかし、8月末に実施を予定していた長野県飯綱町における自然体験については、感染者の人数が7月から8月にかけて増えている傾向があり、中止とせざるを得なかった。

今後も、感染状況を注視しながら様々な活動について、P T A や地域の方と協働し可能な限り実施できるよう様々な工夫を行い、子どもたちの体験や学びを止めないよう、ともに実践していきたいと思う。

校長 川上 佳士 令和4年(2022)4月1日 板橋区立板橋第五小学校副校長
昇任、着任

副校長 外川 鈴子 令和3年(2021)4月1日 足立区立本木小学校より着任

P T A 会長 佐藤 雅憲 令和3年(2021)4月1日 P T A 会長に就任
(担当青少年委員 磯 洋一 8期目)

「コロナ禍における学校運営と PTA活動について」

伊興中学校

大規模校のため、全校一斉に実施できることは難しく、学年別、または2学年のみ集合し、もう1学年はリモートにするなど感染防止対策を徹底している。例えば卒業式、入学式は当該学年と保護者2名まで。5月実施の体育実技発表会は学年ごとに2時間ずつ、保護者入れ替え制で実施し、3年生のダンスの演技のみ、全校生徒と3年生保護者で参観。生徒会役員立会演説会は1, 2年生が体育館で、3年生のみ教室でオンライン実施。毎月の朝礼は放送で実施。宿泊行事については、3年生修学旅行は6月上旬に2泊3日京都・奈良へ。2年生魚沼自然教室は6月下旬に2泊3日、特別支援学級7組は1泊2日で鋸南宿泊学習を実施。今後は、10月中旬にギャラクシティにて合唱コンクールを実施する予定である。合唱コンクールはこの2年間、計画だけに終わり実施できず、3年生は1回も経験しないまま卒業することになるため、なんとか工夫しながら実施の方向で考えている。同時に10月末には開かれた学校づくり協議会、PTA・おやじの会共催の彰風まつりを実施予定である。感染対策に考慮しながら生徒が地域と交流できる場を確保していきたい。

授業は感染拡大時にはリモートを併用し、クラスルーム等で学活や出欠確認、連絡事項に使っている。一人一台タブレットは持ち帰らせているため、学級・学年閉鎖時もリモートで授業が行えるよう、学びを止めないようにしている。

コロナにより生活が激変したが、コロナにより活動を諦めてしまうのではなく、様々な工夫をしながら教育活動を継続していくことが今後の課題となる。しかし、どの段階で中止や延期を決断すべきかが校長として毎回頭を悩ますところである。校内教職員以外にもブロック校長会やPTA・地域の方々と相談しながら進めていきたい。

校長 千葉 千登勢 令和3年(2021)4月伊興中学校副校長より昇任、着任
副校長 前田 俊夫 令和3年(2021)4月荒川区立第九中学校主任教諭より昇任、着任

PTA会長 那須 康一 令和1年(2019)4月PTA会長に就任
(担当青少年委員 酒井 廣 4期目)

令和4年度 足立区青少年委員会 第12ブロック教育懇談会

開催日	令和4年7月9日(土)	会場	ギャラクシティ レクリエーションホール1		
時間	午後2時～午後3時30分				
参加者	足立区教育委員会 青少年課長		山田 勉 様		
	足立区青少年委員会 会長		多島 三好 様		
	副会長		芦川 珠美 様		
	第11ブロック長		磯 洋一 様		
	[小学校]				
	学校	校長	PTA会長	青少年委員	
	鹿浜第一小学校	中 郡 英 一	大 西 洋 平	原 田 勉	
	北鹿浜小学校	鹿 俣 昇	本 庄 一 広	渡 邊 淳 子	
	鹿浜西小学校	山 下 宗 孝	鈴 木 三 枝 子	高 橋 進	
	鹿浜五色桜小学校	西 澤 武	中 村 卓 雅	横 山 良 和	
皿沼小学校	加 藤 雅 弘	仲 野 政 則	浅 香 一 浩		
[中学校]					
学校	校長	PTA会長	青少年委員		
鹿浜菜の花中学校	水 谷 正 博	遠 藤 智 恵	松 崎 顕 治		
加賀中学校	森 田 卓 司	石 塚 祐 二	太 田 安 昭		
[小中一貫校]					
学校	校長	-	PTA会長	青少年委員	
新田学園	土 肥 和 久	小学校	山 下 弘 美	倉 持 智 光	
		中学校	前 嶋 秀 一	諏 訪 法 和	
会議次第	[司会] 足立区青少年委員 諏訪法和				
開会の辞	足立区青少年委員			太田安昭	
主催者挨拶	足立区青少年委員12ブロック長			浅香一浩	
来賓挨拶	足立区青少年課長			山田 勉 様	
会長挨拶	足立区青少年委員会会長			多島 三好 様	
自己紹介					
進行	足立区青少年委員			松崎 顕 治	
	足立区青少年委員			倉持 智 光	
閉会の辞	足立区青少年委員			高橋 進	

テーマ	コロナ禍におけるデジタル教育
[懇談会記録]	
<p>令和4年度の足立区青少年委員会第12ブロック教育懇談会は「コロナ禍におけるデジタル教育」をテーマとして開催し、各校の校長及びPTA会長に参加していただきました。</p>	
<p>本会の開催にあたり、各校の校長には、コロナ禍におけるデジタル教育に係る取組み状況や成果・課題、これからのICT教育への取組目標などを事前にレポートとして纏めていただき、本会では、本レポートに沿って、新型コロナウイルスの影響で大きく加速したICT教育の現状について発表していただきました。</p>	
<p>また、PTA会長からは、保護者の観点から、デジタル教育への期待や不安、家庭教育として取組むべき課題などについてお話しをいただきました。</p>	
<p>各校の校長は、コロナ禍により教育現場は大きく混乱させられたものの、5か年計画であったGIGAスクール構想による児童生徒1人1台タブレット端末環境の実現が早期化し、ICT教育の推進が一段と加速したことが大きなメリットであったと前向きに捉えているため、各校ともデジタル教育に対して積極的に取り組んでいる様子が伺えました。</p>	
<p>児童生徒1人1台タブレット端末導入の成果としては、①児童生徒のデジタルツールの操作能力が格段に向上し、学習意欲を刺激することができた、②デジタルツールの活用により保護者と教員間の情報伝達における迅速性・正確性を確保し、効率化を図ることができた、③児童生徒の反応を確かめながら授業を進められるため、理解を深めさせることができる等のお話がありました。</p>	
<p>課題としては、①児童生徒の目の疲労度合などを踏まえた今後の活用ルールの策定が必要、②Windows OSとChrome OSのタブレット端末が混在しているため、操作ポリシーの差異により教員の負担が大きい状況にある、③自治体ごとに使用しているハードやソフトが異なるため、教員異動時のリスクが考えられる等のご意見がありました。</p>	
<p>その他として、①管理職（校長・副校長）や講師にもタブレット端末を配備して</p>	

欲しい（一般教員のタブレット端末を借りて使用している）、②特別教室や少人数授業で使う教室へ電子モニターを設置して欲しい等の要望がありました。今回の教育懇談会を通じて、各校のデジタル教育に係る取組みや成果・課題を詳細に把握できた事は、我々青少年委員にとっても大変有意義な会となり、児童生徒が、より一層、情報端末を適切・安全に活用できるよう、学校としても地域の支援リーダーである青少年委員からのサポートを期待していることを改めて実感いたしました。

《教育懇談会の様子》

浅香ブロック長の挨拶



山田課長の挨拶



多島会長の挨拶



進行担当の松崎委員と倉持委員



懇談会の様子



以上

令和4年度 足立区青少年委員会 第13ブロック教育懇談会

開催日	令和4年6月20日(月)	会場	足立区立舎人第一小学校
時間	*懇談会 17:00~18:00		
参加者	<p>足立区教育委員会こども家庭部 青少年課 課長 山田 勉 様</p> <p>足立区青少年委員会 会長 多島三好 様 第1ブロック 宮崎保子 様</p> <p>青少年対策舎人地区委員会 会長 小金井 寛 様</p> <p>足立区立舎人小学校 校長 大塚信明 PTA会長 中務美帆(代理) 青少年委員 塚本京子</p> <p>足立区立古千谷小学校 校長 相原和子 PTA会長 藤原優子(代理) 青少年委員 前田典彦</p> <p>足立区立舎人第一小学校 校長 澁谷あゆみ PTA会長 小林英理(代理) 青少年委員 小田川利幸</p> <p>足立区立入谷中学校 校長 小出康隆 PTA会長 松田貴雄(欠席) 青少年委員 若山克彦</p> <p>足立区立足立入谷小学校 校長 田村正弘 PTA会長 青少年委員 清野美貴</p> <p>足立区立入谷南中学校 校長 遠藤映悟 PTA会長 星野裕子 青少年委員 板越由希子</p>		
ブロックテーマ	『 コロナ禍における子どもたちの心を守り 体力向上を実現できる取り組み』		
次第	ブロック長より挨拶、会場校長挨拶、来賓挨拶、来賓紹介、 各校取り組み発表、質疑応答、総評、次回校長挨拶、閉会		

【懇談会記録】

・主催者挨拶 コロナ禍における子どもたちの心や体力面などに関する話し合いができればいいと考えている。(清野)

・来賓挨拶 コロナ禍により約2年、何もイベントなどができなかった。
感染症対策として手洗いうがいマスクなど基本的なことを徹底し、PTAと協力して消毒液の各校へ配布を実施した。コロナ禍でなかなか集まれず今回せっかく集まったので地域コミュニケーションについて考えていきたい。(多島)

・全国的にコロナは減ってきているが、足立区は増加傾向にある。コロナに加え熱中症患者も増えてきているので登下校や部活などは注意してほしい。マスクを外すなどの対策をしてほしいが、コロナ感染もあるのでなかなかはずすのは難しい。子育てについては学校や地域で協力してやっていきたいと考えている。(山田)

〈会場校挨拶〉

足立区に赴任してきて三か月たったが、地域がここまで子どもたちに尽くすことにおどいている。(澁谷)

〈各校の取り組み〉

【古千谷小】

コロナ禍で制限された中、運動会を実施したが問題なく終わられた。

体力向上を目標に休み時間などは先生と一緒に子どもたちが遊びながら体をうごかしている。また、『コジランド』という名目で月に一回運動の種類を変えて楽しみながら体力向上を行っている。

【舎人第一小】

運動会は暑さもあり相当疲れたとの声があったが無事に終わられた。

月一回長縄タイムということで大縄を実施しており、低学年は先生が縄を回し高学年は自分たちで縄をまわし、先生と一緒に自由時間を楽しんでいる。

放課後はキッズパレットでの遊びや校庭で先生も入り楽しく運動している。

朝についても遊ぶ時間を増やすなどの検討をしている。

【足立入谷小】

他の学校に比べて小規模校ということもありコロナ対策についてはやりやすいと感じている。休み時間はボール遊びなど自由に校庭で遊んでいる。

運動会については、応援や長い入場、全校競技などは中止し午前中で終わらせた。

全体的にしっかり走っており体力などの衰えは見えない。基礎体力向上としてオリンピックタイムというのを採用し、20分休みに遊びを通じた運動を実施している。

熱中症対策についてもしっかり実施している。.....

【入谷中】

.....コロナ対策を徹底し、修学旅行や魚沼林間学校のイベントを実施した。.....

.....運動会についても朝から行い、体力も徐々に戻ってきていると考えている。.....

.....7月中にSOSに出し方の授業を予定している。.....

【舎人小】

.....運動会や体力調査が終了し、水泳指導も開始している。体力面については徐々に戻ってきていると考えている。夏から校庭改修が予定されており校庭が使用できない期間が発生するため、体力維持のための施策を検討している。タブレットを一人一台配布しており、視力低下は姿勢に悪化について、タブレットを操作したら少し休むなどの指導をしている。PTAの活動として夏休みラジオ体操を校庭が使えないので体育館で実施する予定。.....

【入谷南中】

.....宿泊イベントを夏休み前後で実施予定。運動会については準備期間が短いため10:30に終わる予定のものを検討している。熱中症対策としては校庭ではマスクを外していいなどの指示を出している。.....部活動については皆、頑張っている。.....

.....水泳については予定通り行い、ラッシュガード着用を許可している。また、生徒会を中心に心を鍛える活動も予定している。.....コロナ禍が原因か不明であるが、ケガが多くちょっとしたケガや、1年生に限って今までとは考えられないようなケガが発生している。オーバーワークにならないような適切な運動を検討しており、11月に演舞などの運動発表会を検討している。.....

・質問タイム

10月の地域運動会は地域活性化のため、今年の実施したいと考えている。

『コジランド』について子どもたちの感想はどうか？⇒全体的に楽しんでいる印象である。汗をかいているのでいい運動になっていると考えている。

・千住地区の学校訪問を実施したところ、低学年の落ち着きがなく教室まで保護者がついてくることが多い。また、おもしろいが多いがこの地域に状況はどうか？（宮崎）
舎人小 ⇒ 子どもより保護者が変わっていないと感じる。自転車に乗せて登校など。

月曜日は、子どもが親から離れられないケースも見受けられる。

足立入谷小 ⇒ 1年生は学校適応が早かった。1年生は問題ないが、3年生は入学式の後、学校にこれずに学べなかった。年代なので心配している。

・総評

熱中症には十分注意して行ってほしい。また、体を動かすことを重点においてほしい。雨の日などだるまさんが転んだや、マット跳び箱などを楽しみながら運動して行ってほしい。歯の検診について一本の価値を子どもたちに教え、虫歯治療を早く実施するようにしてほしい。

・次回会場校長 挨拶。

子どもたちには 日々 季節行事を大切にしている。

また、わからないことは すぐに検索せず自分で考えて答えをだすよう指導している。来年度の教育懇談会には、足立入谷小学校でお待ちしております。

閉会の言葉

以上